

平成28年度

山形県公立高等学校入学者
選抜学力検査成績概況

平成28年6月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

1 結果の考察 1
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 1
問題別正答率（%） 2

社 会

1 結果の考察 3
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 3
問題別正答率（%） 4

数 学

1 結果の考察 5
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 5
問題別正答率（%） 6

理 科

1 結果の考察 7
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 7
問題別正答率（%） 8

英 語

1 結果の考察 9
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 9
問題別正答率（%） 10

資 料

平成28年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

（入学定員・入学志願者数・合格者数等）

1 年度別比較 11
2 課程別・学科別 12
3 推薦入学者選抜実施状況 13

国 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

□の問四は、読み取った登場人物の心情に基づいて適切に朗読する力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、学習の成果がみえる。伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを適切に表現することに取り組むことが大切である。□の問七は、話し合いの話題や方向をとらえ、的確に話す力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、「話すこと・聞くこと」の力が身に付いていることがうかがわれる。□の作文は、複数の資料から目的に応じて必要な情報を読み取り、体験や知識と関連付けながら自分の考えを的確に表現する力をみる問題だが、約8割の受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、グラフの読み取りと体験の記述にとどまり、自分の考えが深まっていない解答が目立つなど、課題がみえる。資料相互の関連性を整理したり、それらの資料と自分の体験とのつながりを確認したりした上で、自分の考えを表現することが大切である。

(2) 課題がみえる問題

□の問二は、品詞についての基礎的な知識・理解をみる問題だが、正答率が4割～5割程度にとどまり、課題がみえる。単語の類別について、単語のもつ文法的な役割とともに、品詞と文の成分との関係を理解できる力の育成が望まれる。□の問六は、文章の展開を確かめながら要旨をとらえ、的確に表現する力をみる問題だが、部分点を含め正答率が6割に達しているものの、書き手の主張とは異なる方向性でとらえた解答が目立つなど、課題がみえる。文章を読むときには、文章の構成や展開、表現の特徴を踏まえた上で、書き手の考えをとらえ、それを的確に表現できるような学習を心がけたい。□の問五は、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、表現する力をみる問題だが、正答率が伸びなかった。登場人物や作者の思いなどを想像したり表現したりする活動を通して、古典の世界に一層親しむようにしたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 国語を適切に表現し、正確に理解することができる

基礎的・基本的な技能の向上を図りながら、伝える内容を適切に表現することや、他者が伝えたい内容を正確に理解することができる。

(2) 主体的に読書に取り組むことができる

読書を通してものの見方や考え方を広げ、自己を向上させることができるよう、計画的に図書館を活用するなどして、主体的に読書に取り組むことができる。

(3) 授業者は「付けたい力」の定着を図る授業計画と評価の工夫を

授業者は、単元の重点を明確にした年間指導計画を作成し、生徒の主体性を引き出す学習課題の設定と言語活動の充実を図りたい。その上で、各単元において「付けたい力」が定着したかどうかを具体的な評価方法に基づいて適切に評価し、指導の改善につなげたい。

国語問題別正答率(%)

(全日制の課程の全受検者から5%を抽出)

問	正 答	配 点	備 考
一	<p>a がまん 100.0 b おと(③) 79.9</p> <p>エ 80.5</p> <p>I 良いところ 72.3 II 弱点とか短所 91.7</p> <p>(例) 自分への指摘に納得しているものの、短所を言われて面白くないと思うので、悔しい様子が表れるように、少し強い口調で読む。 74.6</p> <p>イ 78.8</p> <p>(例) 選手たちが互いを知ることによって、それぞれの特徴を活かすプレーをすることが大切であるということ。</p> <p>《選択問題》</p> <p>A (例) 話題や話し合いの進め方を最初に確認している。 74.6</p> <p>B (例) 仲間の発言をよく聞き、共感的に反応している。 21.5</p> <p>無答 3.8</p> <p>A 86.6 B 79.5</p>	27	<p>問三 II 「よくない部分」でもよい。</p> <p>問四 康生の心情を適切に理解した上で、それに合った朗読の仕方を述べたものを積極的に評価すること。</p> <p>問六 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p> <p>問七 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p>
二	<p>a とだ(えて) 97.1 b はいしやく 92.6</p> <p>I 動詞 51.9 II 名詞 43.7</p> <p>ウ 64.3</p> <p>(例) 他の生物と異なる、人間だけに特有の能力。 58.7</p> <p>(例) 対象をよく見つめ、本質をとらえたうえでかわいがること。 64.6</p> <p>(例) 経済を優先して考えていくのではなく、人間が自然の一部であることをまよ、自分の生き方についてよく考えていくこと。</p> <p>エ 64.9</p>	27	<p>問六 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p>
三	<p>すべきようなく 93.2</p> <p>さやうく惜しや 35.4</p> <p>I 霊宝 74.3 II 開帳 72.9</p> <p>ア 76.7</p> <p>(例) 貧しい寺の僧が、貧乏神を開帳する立て札で参詣客を集め、寺が豊かになったこと。 33.6</p>	15	<p>問五 「やせ寺の僧が、立て札で人を集めた結果、寺が繁盛し、貧乏神がいられなくなったこと。」などでもよい。</p>
四	<p>1 帯 83.8 2 育(む) 66.7 3 奮起 61.7</p> <p>4 効率 87.6 5 燃焼 83.2</p> <p>(例) 朝寝坊をして遅刻した兄の失敗を 45.4</p>	13	<p>問一 例以外にも多様な表現ができるので、積極的に評価すること。</p>
五	<p>【評価の観点】</p> <p>(1) 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 選んだ二つのグラフを見て気づいたことが、明確に述べられているか。 ○ 「私と地域との関わり」についての自分の考えが、自身の体験や見聞きしたことを含めて明確に述べられているか。 <p>(2) 構想・叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一段落で構成されており、第一段落には、選んだ二つのグラフを見て気づいたことが述べられ、第二段落には、第一段落を踏まえ、自分の考えが、自身の体験や見聞きしたことを含めて明確に述べられているか。 ○ 文章の組み立てや展開が適切で、全体のまとまりがあるか。 ○ 叙述の仕方が的確で、工夫がみられるか。 <p>(3) 書写・表記</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字が正しく、整っており、表記が適切であるか。 	18	<p>◇ 採点基準は、【評価の観点】を踏まえ、各学校において適切に設定すること。</p> <p>◇ 採点は2名以上で行い、それぞれ18点満点とすること。</p> <p>◇ 採点者は全答案を通して採点し、評価、評点のゆれがないよう留意すること。</p> <p>◇ 評点は、各採点者による点数を平均(端数切り上げ)したものとすること。</p>
合計		100	

【注意】 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

社 会

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の問4は、地球儀や世界地図を活用し、世界の地域構成を大観する力をみる問題だが、正答率が6割を超えている。授業において、地球儀や地図を十分に活用した学習が行われていることがうかがわれる。⑤の問2(2)は、日本国憲法に基づく政治の仕組みについての知識・理解をみることをねらいとした問題だが、正答率が9割を超えており、基本的な学習事項が定着していることがうかがわれる。一方で、高等学校からは「表の読み取りにとどまった不十分な解答が多い」という報告が寄せられている。事実を正確にとらえ、適切に表現する力を養いたい。⑥の問2(3)は、身近な地域について、資料を基に思考・判断したことを表現する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、日常の学習において、身近な地域に対する理解と関心が深まっていることがうかがわれる。その地域に暮らす人々の生活が、国及び地方公共団体が展開する施策と関連していることに着目し、習得した知識や技能に基づいて自分の考えをまとめ、適切に表現する力を養いたい。

(2) 課題がみえる問題

②の問2は、日本の諸地域について、資料を読み取り、思考・判断する力をみる問題だが、正答率は2割～4割程度にとどまり、課題がみえる。日本の諸地域の地域的特色を総合的にとらえることを心がけたい。また、単に地域的特色をとらえるだけではなく、地域の産業と、それを成立させている地理的条件を関連付けて考察するなど、地理的な見方や考え方の基礎を養うことが大切である。②の問4は、地域の地形や気候などから、地域的特色をとらえる力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。高等学校からは「季節風が太平洋側の地域に及ぼす影響について適切に表現できていない」との報告が寄せられている。日本の自然環境に関する知識を身に付けるだけではなく、日本地図を活用して事象を説明するなどの学習活動を大切にしたい。歴史的分野の③の問5(2)は、資料から読み取れる基本的な事象についての知識・理解をみる問題だが、正答率が低く、租や庸などと混同している解答が目立つなど、課題がみえる。資料を活用することで、事象を多面的・多角的に考察し、判断する力を養うことを心がけたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 単に知識を身に付けるだけではなく、主体的に学習に取り組むことができる

持続可能な社会を形成するという観点から、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究し、自分の考えをまとめることができる。そのために、新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用し、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表するなど、主体的に学習に取り組むことができる。

(2) 授業者は思考力・判断力・表現力を養う活動の一層の充実を

課題解決に向けて、自分の見方・考え方を「比較」「関連付け」「総合」しながら再構成する学習を重視したい。そのために、授業者は、思考・判断したことを、適切に表現する力を養う活動の充実を図りたい。

問	正 答	配 点	備 考
1	問1 インド洋 89.4 問2 (B国)ウ (C国)エ (B国) 15.0 (C国) 61.9 問3 イ 45.1 問4 ウ 68.7 問5 (1) (備考欄に示す。) 68.4 (2) (例) 原油価格の変動が、B国の国内総生産に影響している。 67.3 問6 (例) 供給量が少ない 54.0 問7 《選択問題》 ㊦ (1) ア (2) (例) 降水量が多く、1年を通して気温が高いから。 ㊧ (1) ウ (2) (例) 1年を通して気温や降水量の変化が大きいためから。 ㊦ 97.3 ㊧ 55.9	18	問5(1) 【グラフI】 18 選択率 ㊦ 87.0 ㊧ 10.0 無答率 3.0
2	問1 (1) エ 85.0 (2) 盆地 70.8 問2 (B) (番号)㊦ (県名)鹿児島(県) 25.7 (D) (番号)㊠ (県名)千葉(県) 44.0 問3 (例) 暖流と寒流がぶつかり、たくさんの魚が集まる所だから。 77.0 問4 (例) 季節風が山脈を越えて乾いた状態で吹き、晴れの日が多くなるから。 45.7 問5 前橋(市)、さいたま(市) 59.9 問6 (例) 市町村の合併。 81.1	17	問2 番号と県名が両方できて正答とする。 問5 順序は問わない。
3	問1 中世 82.9 問2 (例) 天皇の位を譲り、上皇として権力を握った。 44.0 問3 (1) エ 64.6 (2) ア 55.5 問4 (例) 幕府は京都に六波羅探題をおき、朝廷の監視を強めた。 71.4 問5 (1) イ 44.8 (2) 調 34.8 問6 ① D ② A ③ C ④ B 53.4	18	問6 全部できて正答とする。
4	問1 (例) 領事裁判権を認めたこと。 63.7 問2 殖産興業 49.0 問3 ウ 27.4 問4 ア 76.7 問5 (例) 満州国の独立を認めないこと。 38.3 問6 教育基本法 49.6 問7 エ → イ → ア → ウ 14.7	17	問1 「アメリカの治外法権を認めたこと。」でもよい。 問5 「満州の占領地から日本の軍隊を引きあげること。」などでもよい。 問7 全部できて正答とする。
5	問1 (1) 閣議 54.3 (2) (記号)ウ (番号)㊦ 64.3 問2 (1) イ 85.8 (2) (例) 衆議院は参議院と比べて任期が短く、解散もあるため、国民の意思が反映されやすいから。 90.9 問3 (1) 三審制 92.3 (2) 司法 76.7 問4 (例) 地域の特色に合わせた、独自の政策が行えるようになること。 50.7	16	問1(2) 記号と番号が両方できて正答とする。 問4 受検者の多様な考えや表現を積極的に評価すること。
6	問1 (1) 国際分業 54.9 (2) (例) 株式などを発行して、資金を調達する方法。 16.2 (3) ア 52.2 問2 (1) イ 79.9 (2) 地産地消 61.9 (3) (例) 若者を県内に定住させること。 80.8	14	問2(3) 「子育てをしやすい環境を整えること。」などでもよい。
		合計 100	

〔注意〕 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

数 学

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

① 2、3は、式の値や二次方程式の解を求める力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校からは「括弧の使い方が不適切であった」「約分が不十分であった」などの報告が寄せられている。正しく計算する力を身に付けたい。① 5のAは標本調査により母集団の傾向をとらえる力、Bは比例を用いて具体的な事象をとらえる力をみる問題だが、正答率はAが7割、Bが8割を超えており、基本的な学習事項が定着していることがうかがわれる。日常の場面を数学と結び付けて考察することで、数学のよさを実感できるようにしたい。② 2(1)は、空間図形を平面上に表現する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。授業での数学的活動を通して、空間図形についての理解を深めることが大切である。

(2) 課題がみえる問題

数の平方根を含む式の四則計算をする力をみる① 1(4)については、正答率が低く、課題がみえる。正の数の平方根を含む四則計算では、交換法則、結合法則や分配法則はそのまま成り立つことを理解し、具体的な場面で平方根を用いて表したり処理したりすることができるような学習を心がけたい。③ 1(1)は、一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明する力をみる問題だが、5割以上得点した受検者は全体の約46.1%であり、課題がみえる。数学的な表現を用いて、根拠を明らかにした上で、筋道立てて説明することを心がけたい。③ 1(2)、2は、伴って変わる二つの数量の変化や対応の様子をとらえる力をみる問題だが、1(2)のグラフの正答率がおよそ6割である一方、エの式の正答率、2の正答率は3割を下回っている。一次関数の特徴を、式やグラフでとらえるとともに、それらを相互に関連付けて理解し、考察する力を身に付けたい。④ 2、3は、三角形の合同条件などを用いて、論理的に証明する力や、図形を考察する力をみる問題だが、2については5割以上得点した受検者が少なく、3の正答率も低い。図形について見通しをもって考え、見いだした図形の性質を具体的な場面で活用する力を身に付けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることができる

新たな性質や考え方を見いだそうとしたり、具体的な課題を解決しようとしたりする活動を通して学び、数量や図形などについて実感を伴って理解することができる。

(2) 数学的に説明し伝え合い、数や図形の性質などを見いだしたり、数学を利用したりすることができる

既習の数学を活用する手順を順序よく説明したり、根拠を明らかにした上で、筋道立てて説明したりすることができる。

(3) 授業者は数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、意欲的に取り組む態度の育成につながる授業の充実を

数学を活用して能率的に処理できることや、簡潔に表現できることを実感し、意欲的に学習に取り組む態度を養いたい。そのために、授業者は、指導する内容を吟味し、生徒一人一人に応じた適切な指導と助言を心がけたい。

問	正 答	配 点	備 考
1	1 (1) 3 97.7 (2) $-\frac{1}{2}$ 85.6 (3) $-4a+6b$ 86.2 (4) $7-2\sqrt{3}$ 59.5 2 (求め方は略。) 25 76.5 3 (解き方は略。) $x=1\pm\sqrt{2}$ 75.1 4 $\frac{3}{5}$ 58.9 5 《選択問題》選択率 ㉠ 77.7 ㉡ 17.0 ㉠ (およそ) 3200 (粒) 71.7 ㉡ (およそ) 2400 (個) 84.5 6 (作図例は右に示す。) 50.1	32	
2	1 (1) $0 \leq y \leq 12$ 73.6 (2) $(-9, -1)$ 17.9 2 (1) (投影図は備考欄に示す。) 80.4 (2) 300 (cm ³) 12.9 3 (1) (例) 回数が6回の人数を x 人とする。 51.9 $3 \times 1 + 4 \times 3 + 5(19-x) + 6x + 7 \times 2 = 5.4 \times 25$ (例) 回数が5回, 6回の人数をそれぞれ x 人, y 人とする。 $\begin{cases} 3 \times 1 + 4 \times 3 + 5x + 6y + 7 \times 2 = 5.4 \times 25 \\ 1 + 3 + x + y + 2 = 25 \end{cases}$ (2) 11 (人) 28.7	25	2 (1) 図 3
3	1 (1) <方法> (例) 大樹さんが逆もどりする道のりは400 m だから, 400 m を毎分100 m の速さでわる。 (2) ア 10 55.7 イ 12 51.6 ウ 800 37.5 エ $-75x + 2700$ 24.0 (グラフは右に示す。) 58.1 2 オ 16 50.1 カ 12 キ 48 2.3	23	1 (1) 受検者の多様な表現を積極的に評価すること。 2 カ, キは両方できて正答とする。
4	1 $2\sqrt{21}$ (cm) 56.3 2 <証明> (例) $\triangle AGD$ と $\triangle BEA$ において $CD \parallel BA$ で, 錯角は等しいから $\angle CDG = \angle AGD = 90^\circ$ ① ①より, $\angle AGD = \angle BEA = 90^\circ$ ② $AD \parallel EB$ で, 錯角は等しいから $\angle GAD = \angle EBA$ ③ 四角形 $ABCD$ はひし形であるから $AD = BA$ ④ ②, ③, ④より, 直角三角形の斜辺と1つの鋭角がそれぞれ等しいので $\triangle AGD \cong \triangle BEA$ よって, $AG = BE$ 3 (1) $\frac{2}{3}$ (cm) 4.4 (2) 7 : 9 1.2	20	
		合計 100	

(注意) 1 各小問の配点については, 各学校で適正な基準を設けること。
 2 この採点基準によって処理しがたい細部については, 各学校の判断によるものとする。

理 科

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の問1、問2、③の問1は、第2分野についての知識・理解や、思考力・表現力をみる問題であるが、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。⑥の問2(1)の、化学式を書く基礎的な知識・理解をみる問題は、正答率が高かった。化合物の組成は化学式、化学変化は化学反応式で表され、化学変化では物質を構成する原子の組合せが変わることについて、理解を深めたい。さらに、化学変化に関係する原子や分子の種類や数をとらえる上で、化学変化を化学反応式で表せるようにしたい。⑥の問2(2)は、金属の利用例について記述し表現する問題だが、正答率が高かった。日常生活や社会で問題を見だし、科学に対して興味をもつことが大切である。また、この問題に対する無答者の割合は2.4%にとどまっている。自らの考えを積極的に表現しようとする態度がうかがわれる。科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動を通して、思考力や表現力を高めたい。

(2) 課題がみえる問題

⑥の問1(1)は、ガスバーナーの操作について知識・技能をみる問題だが、正答率がやや低かった。誤答について、「アとイの順序が逆の解答が多い」という報告が高等学校から寄せられている。観察、実験において事故を防止するためにも、基本操作や正しい器具の使い方を身に付けることが大切である。また、誤った操作や使い方をしたときの危険性について認識しておく必要がある。作用・反作用についての知識及び能力をみる⑧の問4は、やや正答率が低い。物体に力を加えると力が働き返されることを、日常生活や社会と関連付けて理解するように心がけたい。記述問題について、「暗記したことをそのまま述べたような解答が多い」という報告がいくつか寄せられている。レポート作成などでは、観察や実験の結果を基に自分の考えを記述するように心がけたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 身近な自然の事物・現象から問題を見いだすことができる

自然の事物・現象に進んでかかわり、疑問を見つけ、問題を解決することができる。観察や実験を何のために行うか、どのような結果が予想されるかを考えるなど、探究的な学習を行うことができる。

(2) 観察・実験の結果を整理・分析し、考察・解釈したことを表現できる

観察、実験の結果として得られた様々な情報について、数値を処理したり、グラフ化したりするなど、それらを分析して解釈したことを表現できる。

(3) 授業者は観察・実験を通して力を付けることができる授業づくりの工夫を

授業者は、単元のねらいや目標に沿った指導内容を精選し、生徒の主体的な問題解決の過程を踏まえた単元の構成としたい。また、小中高の学習内容の系統性や、日常生活や社会との関連及び他教科における学習内容との関連を考慮し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、科学的に探究する能力の基礎と態度が育つような授業づくりの工夫を図りたい。

問	正 答	配 点	備 考
1	問1 子房 83.4	25	
	問2 (例) はなれやすくなる 87.0		
	問3 W 9.2		
	問4 ア 75.7		
2	問1 (1) 網膜 65.4 (2) (例) 目に入る光の量が、多くなったとき。 72.5	25	
	問2 (1) a けん b 関節 a 67.8 b 72.8 (2) イ 50.6		
	問3 (例) 命令は、脳から出されるのではなく、せきずいから出されるから。 66.6		
3	問1 南中 87.6	25	問3 受検者の多様な表現を積極的に評価すること。 問4 図2
	問2 エ 65.4		
	問3 (例) 周辺部に移動した黒点の形が、細長く変形したから。 64.8		
	問4 (備考欄に示す。) 92.0		
4	問1 ウ 46.2	25	問3d 「長い時間をかけて」などでもよい。
	問2 (例) マグマのねばりけが強いから。 83.1		
	問3 c (例) 地下深い c 85.8 d (例) ゆっくり d 86.1		
	問4 (例) 二つの地点で比べた火山灰の層が、同じ年代にできたこと。 54.4		
5	問1 (1) (例) グラフに、温度が一定になっている部分が見られるから。 34.9 (2) ア 75.4	25	問1(2) 「マグネシウムと酸素は、いつも一定の割合で化合するから。」などでもよい。 問2(2) 受検者の多様な考えを積極的に評価すること。 ① ② 選択率 56.5 41.1 正答率 91.6 86.3
	問2 (例) 状態変化では、原子の種類や数が増えたり減ったりしないから。 85.2		
6	問1 (1) ウ → エ → ア → イ 54.7 (2) (例) 一定量のマグネシウムと結びつく酸素の質量に、限度があるから。 78.7 (3) 2.7 (g) 48.8	25	
	問2 (1) a CuO b CO ₂ a 73.1 b 71.3 (2) 《選択問題》 ① (例) 強く丈夫な性質を生かし、建築物の鉄筋として利用している。 ② (例) 熱を伝えやすく軽い性質を生かし、缶の材料として利用している。		
7	問1 エ 50.0	25	
	問2 7.9 (V) 47.0		
	問3 (例) 回路全体の抵抗が小さくなり、コイルに流れる電流が大きくなるから。 63.0		
8	問1 (式) (例) 30 ÷ 72 (答え) 0.4 (秒) 式 66.6 答え 63.6	25	
	問2 ウ 74.6		
	問3 (1) 慣性 84.6 (2) (例) 質量が大きい球の方が、木片の移動距離が大きいから。 44.1		
	問4 ウ 46.2		
		合計 100	

〔注意〕 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。

2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

英 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①は、具体的な内容や概要、要点を適切に聞き取る力や、聞き取った英語を正しく書く力をみる問題だが、1のNo.1や3のNo.1、4の問題においては正答率が高く、学習の成果がみえる。②の1(1)や3(1)は基本的な言語材料を場面に応じて適切に活用する力をみる問題、2は具体的な場面や状況に合った適切な表現を使用する力をみる問題だが、正答率が高く、基本的な学習事項が定着していることがうかがわれる。③の1、2は、図や表と照らし合わせながら、会話の大切な部分を的確に読み取ったり、話された内容や考え方をとらえたりする力をみる問題だが、1のイ以外は正答率が高く、学習の成果がみえる。書かれた内容や考え方をとらえ、話の内容や書き手の意見などについて、主体的に考えたり、判断したりしながら理解することが大切である。

(2) 課題がみえる問題

②の1(2)、(3)や、3(2)の語と語のつながりに注意して正しく文を書く力をみる問題では、それぞれ正答率が低く、課題がみえる。単に文法規則や語彙などについての知識を身に付けるだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として、正しい語順や語法で文を書くような学習を心がけたい。④は、物語のあらすじをつかみながら内容を読み取る力や、登場人物の考えや心情など書かれた内容を適切に理解する力をみる問題である。3のX、Yは正答率が高く学習の成果がみえる一方で、1や2、4では、正答率が低い。文章を読む際には、内容の特定部分にのみとらわれることなく、大まかな流れや大切な部分を正確に読み取るように心がけたい。⑤の選択問題は、英文で書かれた内容から書き手の意向を理解し適切に応じる力や、自分の考えが読み手に正しく伝わるように書く力をみる問題だが、5点以上得点した受検者は全体のおよそ46.1%であり、課題がみえる。高等学校からは、「4文以上のまとまりのある英文を書く力が十分ではない」という報告も寄せられた。授業において、「読むこと」と「書くこと」を統合的に活用できる言語活動のさらなる充実が期待される。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 英語を聞いたり読んだりしたことをもとに、英語で話したり書いたりすることができるなど、積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業での様々な活動を通じて、単に「読むこと」や「話すこと」などができるだけでなく、「聞くこと」や「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができる。

(2) 言語の使用場面に応じて、英語を適切に理解し、英語で適切に表現することができる

実際の言語の使用場面で、言語の働きを踏まえて、相手の考えを理解したり、積極的に自分の考えを伝えたりすることができる。

(3) 授業者は生徒の実態や「付けたい力」に応じた指導計画の改善と、教科書の題材や内容を活かした4技能を統合的に活用できる言語活動の充実を

学校ごとに作成した「CAN-DOリスト」に基づいて指導と評価を一体化するとともに、授業者は4技能の総合的な指導を通して4技能を統合的に活用できる授業づくりをさらに充実させ、コミュニケーション能力の基礎の育成を図りたい。

問	正 答	配 点	備 考												
1	1 No.1 ウ 80.5 No.2 イ 48.7 2 ア 博物館 84.4 イ 140 77.3 ウ (例) 生活していた 79.6 3 No.1 エ 70.2 No.2 イ 39.8 4 (Please) help yourself if you want some more (.) 73.7	26													
2	1 (1) who 70.2 (2) minutes 31.6 (3) earlier 28.3 2 (1) ア 80.5 (2) ウ 56.0 3 (1) (This is) the book that I have to read (for homework.) 78.5 (2) (I will) go there after school is over (.) 18.3	18													
3	1 ア (例) チームとして一緒に 72.0 イ (例) 他国の人々と異なる見方 45.4 2 W ドイツ 80.5 X 中国 83.2 Y フランス 67.8 Z カナダ 68.1 3 ウ, エ 47.2 71.7	16	3 順序は問わない。												
4	1 (例) ショーで歌を歌う準備をするため。 33.3 2 (d) 47.8 3 X (例) 困難な経験 77.9 Y (例) 歌うことで人々に喜びを与えることができる 60.8 4 (例) 東京で木に突ったサクランボを見ることができるとは思わなかったということ。 51.6 5 (1) (例) Yes, she did. 71.4 (2) (例) She felt how much Emi loved her home. 39.8 6 エ → イ → ア → オ → ウ 50.4 7 I (例) Why do you like (her so much?) 41.0 II (例) Shall I tell you (more about her?) 18.6	30													
5	《選択問題》 Ⓐ (例) You don't have to buy anything for her birthday. It is important to thank her for everything she does. You can help her with the housework. I'm sure she will be happy. Ⓑ (例) You should study in the morning. At night, you are very tired after a long day. It is difficult to study when you are sleepy. You can learn more after a good sleep.	10	受検者の多様な表現を積極的に評価すること。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>選択率</th> <th>正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A選択</td> <td>54.3</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>B選択</td> <td>38.1</td> <td>85.3</td> </tr> <tr> <td>無選択</td> <td>7.7</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table>		選択率	正答率	A選択	54.3	91.3	B選択	38.1	85.3	無選択	7.7	/
	選択率	正答率													
A選択	54.3	91.3													
B選択	38.1	85.3													
無選択	7.7	/													
		合計 100													

[注意] 1 各小問の配点については、各学校で適正な基準を設けること。
2 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校の判断によるものとする。

平成28年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況 (入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
中学校卒業生数		11,412	10,996	10,862	10,687	10,637	
全 日 制	県 立	入学定員	7,960	7,680	7,560	7,480	7,360
		入学志願者数	8,245	7,808	7,577	7,212	7,366
		倍 率	1.04	1.02	1.00	0.96	1.00
		合格者数	7,433	7,255	7,017	6,800	6,869
		最終倍率	1.02	1.00	0.99	0.96	0.99
		充足率	93.4%	94.5%	92.8%	90.9%	93.3%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者数	371	347	351	346	345
		倍 率	1.33	1.24	1.25	1.24	1.23
		合格者数	280	281	282	281	284
		最終倍率	1.33	1.24	1.25	1.24	1.23
		充足率	100.0%	100.4%	100.7%	100.4%	101.4%
	合 計	入学定員	8,240	7,960	7,840	7,760	7,640
		入学志願者数	8,616	8,155	7,928	7,558	7,711
		倍 率	1.05	1.02	1.01	0.97	1.01
		合格者数	7,713	7,536	7,299	7,081	7,153
		最終倍率	1.03	1.01	1.00	0.97	0.99
		充足率	93.6%	94.7%	93.1%	91.3%	93.6%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者数	146	138	128	127	116	
	倍 率	0.52	0.49	0.46	0.45	0.41	
	合格者数	135	126	116	120	112	
	最終倍率	0.51	0.47	0.44	0.45	0.41	
	充足率	48.2%	45.0%	41.4%	42.9%	40.0%	
総 計	入学定員	8,520	8,240	8,120	8,040	7,920	
	入学志願者数	8,762	8,293	8,056	7,685	7,827	
	倍 率	1.03	1.01	0.99	0.96	0.99	
	合格者数	7,848	7,662	7,415	7,201	7,265	
	最終倍率	1.02	0.99	0.98	0.95	0.97	
	充足率	92.1%	93.0%	91.3%	89.6%	91.7%	

(注)

- (1) 倍率＝入学志願者数÷入学定員 最終倍率＝受検者数÷入学定員
- (2) 充足率＝合格者数÷入学定員×100
- (3) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年の生徒数による。

2 課程別・学科別

課程	区分	入学定員		受検者数		合格者数		
	学科	人数	前年度比	人数	最終倍率	人数	充足率	
全 日 制	普通科	3,960	▲80	4,020	1.02	3,785	95.6%	
	専門教育を主とする学科	理数	120	0	126	1.05	120	100.0%
		音楽	40	0	35	0.88	36	90.0%
		体育	80	0	102	1.28	81	101.3%
		農業	440	0	376	0.85	368	83.6%
		工業	1,200	▲40	1,196	1.00	1,133	94.4%
		商業	600	0	657	1.10	592	98.7%
		水産	80	0	32	0.40	31	38.8%
		家庭	80	0	90	1.13	80	100.0%
		看護	40	0	46	1.15	41	102.5%
	情報	40	0	48	1.20	40	100.0%	
総合学科	960	0	871	0.91	846	88.1%		
合計	7,640	▲120	7,599	0.99	7,153	93.6%		
定 時 制	普通	200	0	96	0.48	94	47.0%	
	工業	80	0	20	0.25	18	22.5%	
	合計	280	0	116	0.41	112	40.0%	
全定合計		7,920	▲120	7,715	0.97	7,265	91.7%	

(注)

(1) 充足率＝合格者数÷入学定員×100

(2) 入学定員で120名の減は、山形中央普通科と酒田光陵普通科の各1学級減と、米沢工業の学科改編による1学級減によるものである。

3 推薦入学者選抜実施状況（平成28年度）

区分	課程 学科	全 日 制											
		普通	専門教育を主とする学科										総合学科
			理数	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	
入学定員	3,960	120	40	80	440	1,200	600	80	80	40	40	960	
募集人員	—	8	20	56	108	298	132	24	24	12	10	172	
志願者数	—	9	33	94	112	415	196	12	21	30	10	145	
内定者数	—	9	21	61	84	285	137	12	17	12	10	132	
志願倍率	—	1.13	1.65	1.68	1.04	1.39	1.48	0.50	0.88	2.50	1.00	0.84	
充足率	—	112.5%	105.0%	108.9%	77.8%	95.6%	103.8%	50.0%	70.8%	100.0%	100.0%	76.7%	

区分	全日制
	計
入学定員	7,640
募集人員	864
志願者数	1,077
内定者数	780
志願倍率	1.25
充足率	90.3%

区分	課程 学科	定 時 制		
		普通	工業	計
入学定員		200	80	280
募集人員		—	0	0
志願者数		—	—	—
内定者数		—	—	—
志願倍率		—	—	—
充足率		—	—	—

区分	全日制・定時制 総 計
入学定員	7,920
募集人員	864
志願者数	1,077
内定者数	780
志願倍率	1.25
充足率	90.3%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
- (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
- (3) 推薦選抜で志願者があった学校
 全日制：26校（前年26校）
 66学科（前年67学科）
- (4) 募集人員（実施要項より）
 理数科：30%以内
 音楽科：50%程度
 体育科：70%程度
 職業に関する学科：30%以内
 総合学科：30%以内

※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したものである

- (5) 連携型選抜は含まれていない